

認定看護師の活動

集中ケア認定看護師・特定行為看護師 中田 健

～患者さんの状態変化を捉え、
医師と連携しながら
タイムリーに介入～



〈特定行為看護師としての実践〉

2018年に特定行為研修(6区分・15行為)を終了後、救命救急センターを中心に、医師と連携しながら患者さんの早期回復に向けて特定行為をいかした看護実践を行っています。救命救急センターでは、人工呼吸器が必要になる患者さんが多く、病状に応じて人工呼吸器の設定を調整し、全身状態が少しでも早く安定するように介入しています。

現在、特定行為実践を開始して4年目になり、できることも増えてきましたが、集中ケア認定看護師・特定行為看護師としてさらに専門的知識・技術を高め、スタッフと共に患者さんが少しでも早く元の生活に復帰できるように支援していきたいと考えています。高齢化の進む浜田圏域においても、2025年を見据えて、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを支える『在宅医療』の必要性が高まっています。在宅医療を支える存在の一人としてもさらに研鑽し役割を発揮したいと思っています。



〈医療チームでの活動について〉

現在、院内急変対策チーム(RRT)・呼吸サポートチーム(RST)の一員として毎週部署をラウンドし、横断的に活動しています。ベッドサイドで患者さんの全身状態を観察しながら、異常の発見に努め、少しでも呼吸状態が楽に保てるように、また人工呼吸器から早く離脱できるように医療チームで介入しています。

病状が悪化する前には呼吸や意識の変容が起こりやすいため、注意深い観察が必要です。患者さんのサインを確認し、予測する力を高めることが重要です。そのために今年度は特に、病棟看護師と共にケースカンファレンスを積極的に行い、気になったことや急変の前兆がなかったか等、振り返り学習に力を入れています。コロナ禍ですが院内で学びあえる環境を整え、スタッフと顔の見える関係性を大切にしながら、看護チームの知識やスキルを強化できるように頑張りたいと思います。

また先日、地域医療従事者を対象に「状態変化に気づく大切さ」という内容で研修を行いました。近隣の施設より多くの医療従事者の方に参加いただきありがとうございました。今後も地域の皆様が必要とする研修会の開催を考えています。研修会の希望があれば病院にご連絡ください。

